

映画・テレビドラマ映像分析研究会

お問い合わせ先

代表 荒木慎太郎

shintaroaraki1206@gmail.com

研究会メンバー

荒木慎太郎 「東映の不良性感度」

嶋津麻穂 「淀君像の変遷」

西川秀伸 「映画における驚愕」

宮内沙也佳 「アメリカヒーロー映画における肥満身体表象」



本研究プロジェクトは、映画と近年研究され始め活発に研究されるようになったテレビドラマに焦点を当てる。

映画とテレビドラマが相互に影響しながらどのように発展してきたのか、テレビドラマが独自の価値を獲得し映画とは違う価値を形成してするのかを検討し、作品を脚本や演出といった制作の面から分析する能力を向上させることを目的とする。

本研究会は映像作品を鑑賞し、ディスカッションを行うことが基本的な様式となる。加えて、映画理論と作品分析の方法論の理解を深めるために、ボードウェル著『小津安二郎 映画の詩学』の購読を行う。多様な視点からディスカッションを行うことで、専門を超えて新たな気づきが生まれることに期待する。講師を招聘し、専門的な分野からの意見とご教授をいただくことで、映像作品を理論・実践の面から検討することも行う。ゲスト講師は映画美学と映画実践に精通する大阪大学名誉教授の上倉庸敬先生（大阪アジア映画祭実行委員会代表理事、京都映画祭選考委員）を予定し、制作分野など他のゲスト講師の方にも交渉中である。

また、歌舞伎などの大衆娯楽とも関係性が深く、映画の都市でもある京都と関西近郊にてフィールドワークも行う。映画もその始まりは劇場のひとつの演目であり、娯楽文化は鑑賞する環境変化の歴史でもあると考える。小さな映画館の運営はコロナ禍によってさらに厳しいものとなっているが、近年「コミュニティシネマ」など、新たな映画との関りや鑑賞の形が提案されている。京都という劇場文化の残る都市の利を活かしたフィールドワークを行い、鑑賞の様式についても検討することで、映像文化についての見識を広めていく。現在、地域コミュニティとシアターの新しい形について検討するために、楽士の演奏をつけてサイレント映画の上映を行っている西舞鶴のミニシネマ（CINE GRULLA）での鑑賞と調査を検討している。大阪アジア映画祭など、映画と劇場に触れることのできる映画祭への参加も検討している。

本研究会の意義は、映画とテレビドラマを、脚本や監督の作風といった制作の面から検討することである。加えて、見るという映像文化における鑑賞とその様式に注目することは、劇場・茶の間・個室・スマートフォンと個人視聴の性質を強めていくとともに簡易化していく鑑賞環境とスクリーン、そのショットの関係など、作品を分析し検討するための新たな糸口になると考える。